

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年11月10日

【四半期会計期間】 第52期第2四半期(自平成23年7月1日至平成23年9月30日)

【会社名】 フジッコ株式会社

【英訳名】 FUJICCO CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 福井正一

【本店の所在の場所】 神戸市中央区港島中町6丁目13番地4

【電話番号】 078(303)5911(代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役 管理本部長 関忠司

【最寄りの連絡場所】 神戸市中央区港島中町6丁目13番地4

【電話番号】 078(303)5251

【事務連絡者氏名】 経理部長 加藤肇

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜1丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第51期 第2四半期 連結累計期間	第52期 第2四半期 連結累計期間	第51期
会計期間		自 平成22年 4月 1日 至 平成22年 9月30日	自 平成23年 4月 1日 至 平成23年 9月30日	自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日
売上高	(百万円)	25,314	25,829	52,794
経常利益	(百万円)	1,444	1,647	3,579
四半期(当期)純利益	(百万円)	800	947	1,802
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	599	1,029	1,710
純資産額	(百万円)	50,728	51,898	51,351
総資産額	(百万円)	61,900	62,974	61,924
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	24.99	29.58	56.29
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	81.9	82.3	82.8
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	1,743	2,254	3,640
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	548	1,047	1,669
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	133	143	1,189
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	12,455	13,259	11,908

回次		第51期 第2四半期 連結会計期間	第52期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成22年 7月 1日 至 平成22年 9月30日	自 平成23年 7月 1日 至 平成23年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	9.51	11.60

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
 2 第51期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)」を適用し、遡及処理しております。
 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災による供給面の制約が和らぎ、持ち直しの動きが見られます。

食品業界におきましては、供給面の制約が概ね解消される一方で、消費者の買い控えの傾向が続いておりますが、その影響は少しずつ和らいでおります。

このような環境の中、当グループにおきましては、主力の佃煮、煮豆の強化と今後の第3、第4の柱として期待する「カスピ海ヨーグルト」や包装惣菜「おかず畑」の育成、製品価値をより一層高めるための研究開発活動に注力いたしました。研究開発活動では、「カスピ海ヨーグルト」のインフルエンザ感染後のウイルス増殖抑制作用、黒大豆ポリフェノールの肝機能改善作用等に関する学会発表を行いました。

売上面におきましては、主な製品分類別の内、豆製品が前年同四半期実績を下回ったものの、昆布製品、そう菜製品、デザート製品、その他製品が前年同四半期実績を上回りました。

昆布製品は、佃煮昆布「ふじっ子煮カップ」が堅調に推移しました他、パスタやサラダ等のメニュー提案が功を奏し塩吹昆布が伸長いたしました。

豆製品は、煮豆市場が縮小傾向にあるなか苦戦を強いられましたが、おまめさんブランドの強化や豆の新しい食シーンを開拓する商品開発を進める等、今後のニーズの掘り起こしに向けた活動に着手しております。

そう菜製品は、包装惣菜「おかず畑」が大きく伸長いたしました。店頭での売場作りに力を入れて包装惣菜のコーナー（おかずステーション）化を進めるとともに、近畿圏と首都圏でTVCMを放映し、おかずステーションとの相乗効果で売上を拡大させております。

デザート製品は、口どけの良いゼリーに果物の果肉とナタデココがたっぷり入った「フルーツセラピー」の売上が好調に推移しましたことに加え、酸味が少なく独特の粘りが特徴の「カスピ海ヨーグルト」が大幅に伸長いたしました。「カスピ海ヨーグルト」については、料理にも活用していただけるようドレッシングの素を添付するキャンペーンを実施いたしました。また、健康効果を広く知っていただくため、「カスピ海ヨーグルトフォーラム」を開催しました。

その他製品は、「カレーうどんの素」や「麻婆豆腐の素」等の調味食品が堅調に推移しました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は258億29百万円（前年同四半期比2.0%増）となりました。

利益面におきましては、主力の「ふじっ子煮カップ」や「フルーツセラピー」の売上が伸長しましたことに加え、継続的なコストダウンに取り組みましたこと等から、営業利益は15億38百万円（前年同四半期比16.6%増）、経常利益は16億47百万円（前年同四半期比14.1%増）、四半期純利益は9億47百万円（前年同四半期比18.4%増）となりました。

（2）財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ10億49百万円増加し、629億74百万円となりました。

資産の部では、流動資産は、前連結会計年度末に比べ18億円増加し、299億1百万円となりました。これは主に現金及び預金が増加したことによるものです。固定資産は、前連結会計年度末に比べ7億50百万円減少し、330億72百万円となりました。これは主に有形固定資産やソフトウェアの償却が進んだこと等によるものです。

負債の部では、流動負債は、前連結会計年度末に比べて7億13百万円増加し、93億74百万円となりました。これは主に短期借入金の増加によるものです。固定負債は、前連結会計年度末と比べて2億10百万円減少し、17億1百万円となりました。これは主に長期借入金が減少したことによるものです。

純資産の部では、純資産合計は前連結会計年度末に比べ5億47百万円増加し、518億98百万円となりました。この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の82.8%から82.3%となりました。

（3）キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ13億50百万円増加し、132億59百万円（前年同四半期末は124億55百万円）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益を16億24百万円、減価償却費を11億70百万円計上する一方で、法人税等の支払が7億6百万円ありました。この結果、営業活動によるキャッシュ・フローは、22億54百万円の収入（前年同四半期は17億43百万円の収入）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の預入等により、10億47百万円の支出（前年同四半期は5億48百万円の支出）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済及び配当金の支払い等による支出がある一方で、短期借入金の増加による収入がありました。この結果、財務活動によるキャッシュ・フローは1億43百万円の収入（前年同四半期は1億33百万円の収入）となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりです。

1. 基本方針の内容の概要

当グループは、日本の伝統食・伝統食材に基づいた健康に役立つ食品を提供し、日本の良き食文化の復興と承継を通じ、社会全体に幸せで健康な生活を実現することを企業理念（経営理念）として位置付けています。

当グループでは、健康増進のための食品事業を展開する中で、当グループ製造の商品を市場でお買い上げ頂くお客様を何よりも大切にすると共に、法令・社会規範の遵守や環境保全・資源保護といった企業としての社会的責任を果たし、当グループを取り巻く多くのステークホルダーの信頼に応えることを通じて、当グループ全体の価値を向上させるべく、効率的かつ適正な企業運営の推進に努めることを基本方針としております。

2. 不適切な支配の防止のための取組みの内容の概要

当社は、たとえ大量の当社株式が買い付けられることがあっても、それが当グループの企業価値及び当社株主の皆様方の共同利益に資するものであるならば、そのような買収行為自体を否定するものではありません。

しかし当社は、企業価値及び当社株主の皆様方の共同利益の向上を毀損すると思われるような当社株式に対する大量買付行為が行われる場合に、買付者又は買付提案者（以下、併せて「買付者等」といいます）に対して、事前に、当該買付行為に関する情報提供を求め、これにより買付に応じるべきか否かを株主の皆様方において判断して頂き、あるいは、当社取締役会において、代替案を提案するために必要な情報や時間を確保し、株主の皆様方のために買付者等と交渉を行うこと等を可能とするための枠組みとして、買収防衛策（事前警告型ライセンス・プラン）を株主総会の承認を受け導入いたしました。そして、平成23年6月24日開催の第51回定時株主総会において、基本的な理念や考え方は維持したまま、内容を一部変更した上で継続する議案（以下、変更後の事前警告型ライセンス・プランを「本プラン」といいます）を付議し、承認されました。

3. 上記2.の取組みについての取締役会の判断及びその理由

当社取締役会は、買付者等から受領した情報提供回答書等を外部有識者で構成する企業価値判定委員会に提出し、判定委員会は、本プランの定める買収防衛策の発動の要否を判定し、その旨を当社取締役会に勧告します。

当社取締役会は判定委員会の勧告を最大限尊重し、買収防衛策（本プラン）の発動又は不発動を最終的に決定いたします。

当社取締役会は、かかる決定を行った場合、当該決定の概要その他当社取締役会が適切と認める事項について、決定後速やかに、情報開示を行います。

本プランの有効期間は、株主総会において、本プランの継続又は変更が、普通決議（会社法第309条第1項）で承認された後、3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会（平成26年6月に開催予定の定時株主総会）の終結の時までとなります。

但し、かかる有効期間の満了前であっても、(ア)株主総会において本プランを廃止する旨の決議が承認された場合、又は、(イ)株主総会で毎年選任される取締役（当社取締役の任期は1年間）で構成される取締役会により本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されます。

上記2.の取組みにつきましては、当社の基本方針に沿うものであり、株主の皆様方の共同の利益を損うものではなく、また、決して当社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は2億36百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	108,000,000
計	108,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	34,991,521	34,991,521	東京証券取引所 市場第一部 大阪証券取引所 市場第一部	単元株式数は1,000株であります。
計	34,991,521	34,991,521		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日		34,991		6,566		7,299

(6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
有限会社ミニマル興産	西宮市津門川町3番6号	5,420	15.48
山岸八郎	神戸市中央区	1,736	4.96
山岸英子	神戸市中央区	1,033	2.95
福井正一	神戸市中央区	1,015	2.90
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	895	2.55
住友生命保険相互会社 常任代理人 日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番11号	854	2.44
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	687	1.96
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	665	1.90
田中久子	東京都世田谷区	616	1.76
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	616	1.76
計		13,540	38.69

(注) 1 上記の他、当社所有の自己株式2,966千株(8.47%)があります。

2 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 614千株

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 611千株

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,966,000		単元株式数は1,000株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 31,149,000	31,149	同上
単元未満株式	普通株式 876,521		同上
発行済株式総数	34,991,521		
総株主の議決権		31,149	

(注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が240株含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が232株含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) フジッコ株式会社	神戸市中央区港島中町6 丁目13-4	2,966,000		2,966,000	8.47
計		2,966,000		2,966,000	8.47

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,208	15,159
受取手形及び売掛金	7,847	7,773
商品及び製品	676	759
仕掛品	427	515
原材料及び貯蔵品	5,226	4,876
繰延税金資産	466	429
その他	249	389
貸倒引当金	1	1
流動資産合計	28,101	29,901
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	29,053	29,011
減価償却累計額	18,922	19,235
建物及び構築物(純額)	10,130	9,776
機械装置及び運搬具	19,183	19,225
減価償却累計額	15,911	16,297
機械装置及び運搬具(純額)	3,271	2,927
工具、器具及び備品	1,700	1,712
減価償却累計額	1,386	1,411
工具、器具及び備品(純額)	313	301
土地	13,427	13,427
建設仮勘定	9	53
有形固定資産合計	27,153	26,486
無形固定資産		
ソフトウェア	1,073	864
その他	132	126
無形固定資産合計	1,206	990
投資その他の資産		
投資有価証券	4,085	4,280
繰延税金資産	716	663
その他	692	688
貸倒引当金	31	37
投資その他の資産合計	5,462	5,594
固定資産合計	33,823	33,072
資産合計	61,924	62,974

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,841	4,001
短期借入金	207	1,043
未払金	2,810	2,616
未払法人税等	739	642
未払消費税等	178	188
賞与引当金	434	441
預り金	217	219
その他	231	221
流動負債合計	8,661	9,374
固定負債		
長期借入金	210	-
繰延税金負債	4	4
退職給付引当金	1,245	1,231
役員退職慰労引当金	451	465
固定負債合計	1,911	1,701
負債合計	10,573	11,075
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,566	6,566
資本剰余金	7,302	7,302
利益剰余金	40,546	41,013
自己株式	3,197	3,198
株主資本合計	51,218	51,683
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	71	153
その他の包括利益累計額合計	71	153
新株予約権	61	61
純資産合計	51,351	51,898
負債純資産合計	61,924	62,974

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	25,314	25,829
売上原価	15,587	16,048
売上総利益	9,726	9,780
販売費及び一般管理費	1 8,406	1 8,241
営業利益	1,319	1,538
営業外収益		
受取利息	14	3
受取配当金	57	59
受取賃貸料	25	27
その他	37	26
営業外収益合計	135	117
営業外費用		
支払利息	8	6
その他	2	2
営業外費用合計	10	9
経常利益	1,444	1,647
特別利益		
固定資産処分益	-	0
投資有価証券売却益	33	-
その他	0	0
特別利益合計	33	0
特別損失		
固定資産処分損	18	16
投資有価証券売却損	52	-
投資有価証券評価損	8	0
その他	-	6
特別損失合計	80	22
税金等調整前四半期純利益	1,397	1,624
法人税、住民税及び事業税	548	640
法人税等調整額	48	36
法人税等合計	597	677
少数株主損益調整前四半期純利益	800	947
四半期純利益	800	947

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	800	947
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	200	82
その他の包括利益合計	200	82
四半期包括利益	599	1,029
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	599	1,029
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,397	1,624
減価償却費	1,127	1,170
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	0
賞与引当金の増減額(は減少)	11	7
退職給付引当金の増減額(は減少)	5	13
受取利息及び受取配当金	72	62
支払利息	8	6
固定資産処分損益(は益)	18	16
投資有価証券売却損益(は益)	19	-
売上債権の増減額(は増加)	85	73
たな卸資産の増減額(は増加)	300	178
仕入債務の増減額(は減少)	65	159
未払金の増減額(は減少)	122	112
未払消費税等の増減額(は減少)	47	9
預り金の増減額(は減少)	6	2
その他	170	158
小計	2,415	2,902
利息及び配当金の受取額	69	62
利息の支払額	3	4
法人税等の支払額	738	706
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,743	2,254
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	300	900
定期預金の払戻による収入	300	300
有形固定資産の取得による支出	596	360
有形固定資産の売却による収入	6	0
無形固定資産の取得による支出	58	27
投資有価証券の取得による支出	13	61
投資有価証券の売却による収入	123	2
貸付金の回収による収入	1	0
その他	11	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	548	1,047
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	730	730
長期借入金の返済による支出	147	104
自己株式の売却による収入	-	0
自己株式の取得による支出	1	2
配当金の支払額	448	480
財務活動によるキャッシュ・フロー	133	143

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,328	1,350
現金及び現金同等物の期首残高	11,127	11,908
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,455	13,259

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間
(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	448	14.00	平成22年3月31日	平成22年6月30日

2. 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年10月12日 取締役会	普通株式	利益剰余金	480	15.00	平成22年9月30日	平成22年12月3日

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	480	15.00	平成23年3月31日	平成23年6月27日

2. 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年10月31日 取締役会	普通株式	利益剰余金	480	15.00	平成23年9月30日	平成23年12月2日

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額

当グループは、製品の種類、性質、製造方法、販売市場の類似性から判断して同様・同系列の加工食品を専ら製造販売しており、事業セグメントを区分開示する重要性が乏しいため、報告セグメントは単一であり、記載を省略しております。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額

当グループは、製品の種類、性質、製造方法、販売市場の類似性から判断して同様・同系列の加工食品を専ら製造販売しており、事業セグメントを区分開示する重要性が乏しいため、報告セグメントは単一であり、記載を省略しております。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

金融商品の当第2四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の当第2四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

ヘッジ会計が適用されており、また、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	24円99銭	29円58銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	800	947
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	800	947
普通株式の期中平均株式数(千株)	32,035	32,025

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

第52期(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)中間配当については、平成23年10月31日開催の取締役会において、平成23年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額 480百万円
 1株当たりの金額 15円00銭
 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成23年12月2日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月1日

フジッコ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 和田 朝 喜 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中山 聡 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているフジッコ株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成23年7月1日から平成23年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、フジッコ株式会社及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。